

◆ 平成25年4月に開設 「盲養護老人ホーム 星光の里」

盲老人ホームのはじまりは、奈良県にある「壺阪靈験記」で信仰が厚いお寺として、全国に知られる壺阪寺です。当時の副住職であった常盤勝憲師が、高齢視覚障害者の為に、ニューヨークのブレックリン植物園にならって、匂いのする植物を植えて手すりに点字で花や木の名前を刻印、確かめながら散策できる「匂いの花園」を作りました。「お里、沢市にあやかって壺阪寺に永住したい」という高齢視覚障害者が多くなり、昭和36年3月に全国で初となる高齢視覚障害者施設となる「盲人養老院 慈母園」が誕生しました。

後に全国盲老人福祉施設連絡協議会を立ち上げ、全国各県に最低1ヶ所の盲老人ホーム設置を目指して、盲老人福祉の拠点づくりが始まりました。

星光の里は、滋賀県では唯一の高齢視覚障害者の施設です。



◆ 施設の特徴

視覚障害者が一人で安全に移動をすることができて、安心して暮らせるように様々な工夫をしています。通行は衝突を予防する為に左側通行をお願いしています。廊下を渡る時には「渡ります。前に誰も居ませんか？」等と声をかけあって通行されます。五感を使って一人でも目的地に移動が出来る様に工夫をしています。

居室や食堂の椅子、下駄箱には個人の部屋番号の数だけ鉾を打っています。大きい鉾は数字の5、小さい鉾は数字の1です。足し算をすると部屋の番号になります。

自分の部屋がわかるようにお部屋の前の手すりや食堂の椅子に飾りをつけておられます。

食堂内の椅子



居室前の手すり

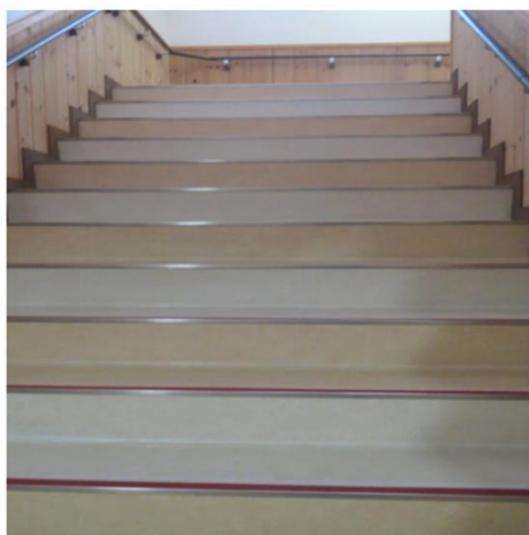


廊下の交差点には水琴窟を置いています。この水の音で廊下の交差点である事、食堂の前に来た事を理解する事ができます。階段はコントラストをつける事で階段を認識しやすくし、転倒防止に役立っています。

水琴窟



階段



### 廊下の腰板



廊下の手すりの上の腰板は、四角の模様と丸型の模様に分けており、触った腰板の形で進行方向がわかるようになっています。

丸型の腰板を触ったまま進むと玄関方向、四角型の腰板を触ったまま進むと食堂方向へ進みます。

### 職員室前の鳴子



各部屋の前の手すりの上には鈴や鳴子といった音の出る物を吊しています。廊下を通過際に出る音の種類で、次の扉が何の部屋であるかを把握する事ができます。

例

鳴子の音がする部屋

⇒職員がいる部屋

大きい鈴の音がする部屋

⇒浴室

等というようにです。

入所されているご利用者の4割の方は全盲です。3割の方は光を感じる程度、残りの3割の方はほんの少し見えますが、視野障害の為に僅かに見える程度です。点字を使用される方も数名おられる為、館内随所に点字表記をしています。

遊歩道（全長 200m）



施設には、全盲の利用者でも一人で散歩が出来る遊歩道を設けています。遊歩道の入口は春の香木（ジンチョウゲ）、遊歩道を進むにつれ季節の香木も変わっていきます。遊歩道の一番奥は冬の香木（蠟梅）です。匂いを感じながら季節を感じると共に、遊歩道での位置確認をされます。

◆行事の様子

敦賀日帰り旅行

焚き火パンづくり



運動会



夏祭り



◆まだまだできますよ



入所前まであん摩のお仕事をされていたご利用者は、10名程度いらっしゃいます。ご自宅でしていた力を施設でも活かして頂いています。白衣に袖を通すと、目つきも変わり真剣な表情です。背筋もピンと伸びて仕事モードに切り替わります。適度に疲労して快眠にも繋がるそうです。施設内には施術室を設けています

多賀町の住民さんを対象にあん摩の奉仕も行いました。現在は、職員の休憩時間等を利用して職員への施術してもらっています。「いつでもいいですよ。私で良ければいつでもしますよ。」と生き生きとした表情で話されます。高齢になっても、目が見えなくても、「役割をもつ」という事がその方の生きる力に繋がる事を実感します。私たちは県下唯一の専門施設として、高齢視覚障害者が安心して入所できるように更に専門的な知識と技術を高め、職員の資質の向上に努めたいと思います。